

2 空港・港湾等の交通拠点と生産拠点を結ぶ広域幹線道路網の整備推進について

(国土交通省)

【内容】

- (1) 名古屋環状2号線は、国際物流・交流拠点の名古屋港への重要なアクセス道路であり、西南部・南部区間の完成に伴って名古屋都市圏の環状道路としての機能が最大限に発揮されることから、早期開通に向けて整備を加速すること。
- (2) 名豊道路は、完成自動車の国際ハブ港である三河港と輸送機器等の生産拠点を結ぶ本県の重要な東西軸であることから、早期全線開通と4車線化に向けて整備を加速すること。
- (3) 西知多道路は、国際拠点空港の中部国際空港と高速自動車国道とを直結する道路であることから、今年度より事業化された東海JCT部の早期整備を図ること。
- (4) 県境を越えた広域連携の軸となる三遠南信自動車道などの広域幹線道路ネットワークの早期整備を図ること。また、広域幹線道路ネットワークの効果をさらに高める浜松三ヶ日・豊橋道路について、国による調査を推進し、早期に具体化を図ること。
- (5) リニア・インパクトを広く中部圏全域に波及させるため、名岐道路など名古屋都市圏における道路ネットワークの早期実現に向けて、国による調査を推進すること。
- (6) 広域幹線道路と一体となって、地方が進める幹線道路については、社会資本整備総合交付金による国の強力な支援により、整備が確実に進められるようにすること。

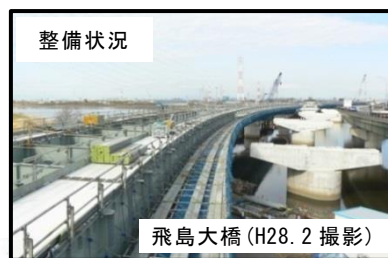
(背景)

- 国内随一の製造品出荷額を誇る本県にとって、県内の生産拠点から交通拠点を結ぶ広域幹線道路に依然として残る未供用区間の解消は大きな課題であることから、早期開通に向けて整備を加速し、物流の速達化、効率化を図ることにより、本県における生産性革命を実現する。
- 名古屋環状2号線の西南部・南部(名古屋西JCT～飛島JCT間12km)は、当該路線において唯一残された未開通区間であり、当区間の整備により、名古屋都市圏の環状道路が完成し、ネットワーク効果が飛躍的に高まる。現在、国土交通省と中日本高速道路(株)において工事が進められているところであるが、未だ開通の見通しが明らかにされていない状況にあり、早期の開通に向けて整備を加速する必要がある。
- 名豊道路は、実質、国道1号のバイパス機能を有し、三河港等の重要港湾と西三河南部の輸送関連機器等の主要生産拠点を結ぶ重要な東西軸であり、既に計画区間の約9割が供用している。残る蒲郡バイパス東部区間は、鋭意事業が進められているものの供用時期が示されず、唯一の未供用区間となる。全線が繋がらなければ、本路線の重要な役割である東西軸としての機能が発揮されないため、一日も早い完成を図り、併せて交通混雑区間の4車線化整備を加速する必要がある。

- 西知多道路は、国際拠点空港の中部国際空港と高速自動車国道の新東名高速道路（伊勢湾岸自動車道）を直結するとともに2027年度開通予定であるリニア中央新幹線の名古屋駅とも名古屋高速道路を経由してつながる重要な路線である。重要な空港・港湾とのネットワークを形成する路線については、国により整備・管理すべきと考えており、引き続き、西知多道路の国による整備・管理を図る必要がある。
- 浜松三ヶ日・豊橋道路は、中部を南北に結ぶ三遠南信自動車道、新東名・東名高速道路や名豊道路を有機的に結び、ネットワーク効果をさらに高める重要な道路であるため、実現に向け国による調査を推進し、早期に具体化を図る必要がある。
- 広域幹線道路を補完する国道41号名濃バイパス、国道153号豊田北バイパス、国道155号豊田南バイパス等は、都市間の交流・連携を促進する役割を担うため、早期整備を図る必要がある。
- 名岐道路は、名古屋と岐阜県をはじめとする中部圏域を結び、リニア中央新幹線のインパクトを広範囲に波及させる効果など、地域連携・交流の強化につながる重要な路線であるため、早期実現に向けて国による調査を推進する必要がある。
- 広域幹線道路とモノづくりの生産拠点などを結ぶ物流ネットワークの強化は、極めて重要であるため、この役割を担う県管理の幹線道路整備について、計画的かつ着実に実施できるよう安定的に予算を確保する必要がある。

（ 参 考 ）

◇名古屋環状2号線の整備状況



◇名豊道路の状況

